

- 1 日時 平成30年11月15日（木）午前10時～11時10分  
2 場所 田水山小学校校舎  
3 出席者 公有地利活用推進課 次長兼課長、課長補佐、係員2名  
文化芸術課 課長  
地域包括支援課 課長  
4 参加者 12名

## 5 内 容

### （１）取りまとめ結果

庁内、民間事業者及び市民の皆様の要望などから出た利活用案の取りまとめ結果について、別紙4、10を用いて説明した。

### （２）質疑・意見交換（●：参加者、○：市）

[田水山小について]

- 地域の振興は考えていないのか。これまで地域に公民館がなかったことを考えると、公的に利活用するのであれば交流センターや公民館が良いのではないかとということで4区会の区長とも話をしている。講座を開くことにより地域活性化もはかれる。住民票等も発行でき、相談も受け付ける、そういう体制が活性化につながっていくと考える。

→○筑波西中校区での交流センターというイメージか。

→●そのとおり。立地的に田水山小学校が条件として望ましい。

- 地域には耕作田もあるので、小中学生が農業等体験学習できる施設として利活用してほしい。交流センターとの併設も行政が運営主体となれば可能であると考えている。

加えて、水守の歴史を復元し、展示すれば集客も見込める。その他、陸上競技場はできなくとも体力増強施設として利活用することは可能ではないか。これまで交流センターとして利活用してほしいとの要望は出してこなかったが、今後は要望していきたい。

→○要望は関係部署に伝えていきたい。これまで実施した利活用に関する調査では、田水山小を全体的に活用したいとの提案は文化芸術活動拠点施設のみであった。地域で一部使用したいとの要望であれば、文化芸術活動拠点施設と施設の一部を地域住民が交流できる場として活用することは考えられる。

→●区の集まりで、田水山小の利活用は、交流センターとしての活用をお願いすることで話がまとまった。筑波地区全体のバランスを考えると、公共施設は

つくバス沿線に多く、桜川以西には少ない。そのため田水山小に交流センターのような施設を造ることが地域にとっても良い。

- 災害の種類は多くなっており、今後、想定を超える災害も発生してくると思われる。田水山小は高台にあり耐震も十分なため、交流センターに加えて避難所としての活用もお願いしたい。音楽室に防音機能が備わっているならおはやし等でも利用したい。

→○田水山小は、すでに指定避難所となっている。災害にも色々な種類があるので、その都度、どういう避難が重要かを考えなければならない。災害が発生した際、耐震化されているからといって一概に田水山小に避難することにはならない。利活用後が公的な施設であれば指定避難所という位置付けは変わらないという認識でいる。

- 地域の活性化を考えると交流センターは必要だと考える。

→○今後、人口増加は望めない状況の中で地域コミュニティをどのように維持していくか考えていかなければならない。その上で学校跡地をどのように活用するのが良いかを考えている。市としてまずは公的利活用を考えていく。市では文化芸術活動拠点施設としての提案がある一方、地域からは交流センターの提案が出ているので、うまく組み合わせることもできるのか等考えていければと思う。

- 避難所には備蓄倉庫が必要だと思うが、田水山小に備蓄倉庫はあるのか。いつの時期の物を備蓄して、どういうサイクルで交換しているかが見えてこない。いざとなったときに使用できるのかという疑問がある。

→○備蓄倉庫はあり、現に備蓄している。

- 利活用後の建物の維持管理費は市が負担するのか。地域利用の場合はどうなるのか。

→○公的利活用なら市が負担し、民間利活用なら民間が負担することになるかと思う。地域での利用に関しては、やり方が色々あるので地域と相談しながら決めていくこととなる。

(文化芸術課)

○公民館は社会教育施設として整備されており、筑波地区においては、筑波庁舎に公民館を建設し(現筑波交流センター)、働く婦人の家も生涯学習の拠点として使用していることから、実態として公民館のような機能を有する施設は2施設存在している。公民館は、社会教育法の縛りから、地域活動拠点として使用するには制限があったことから、条例をつくり、地域交流センターに施設目的を変えた経緯がある。

地域交流センターは生涯学習の拠点、地域活動の拠点、文化芸術の拠点としての役割を担っている。交流センターの新設は、TX沿線を中心に色々な地区で意見が出ている。TX沿線地区には寄り合いの場所すらないため喫緊の課題となっている。

提案している文化芸術活動拠点施設は、ノバホールやカピオと中心地区にしかなく、旧町村単位には市民ホールや交流センターもあるが、できれば北部に新たな文化芸術活動拠点施設を設けたい。借景も考慮し田水山小に設置したいと考えている。文化芸術活動拠点施設でも避難所、地元の寄り合いの場所、おはやしの練習場所などは包含することができる。

→●現に、当地区にこれまで交流センターはなかった。筑波地区の西地区にはないことを考えてほしい。今後、市とも話し合いをさせていただきたい。

→○地域の意向を聞きながら望ましい利活用を考えていきたい。

●ハザードマップはどのような災害を想定して策定しているのか。田中地区は2mの浸水想定区域だが、桜川の堤防が決壊することを想定しているのか、大雨での想定か等が分からない。

→○県で調査をかけている。どこの部分が決壊したらというシミュレーションにはなっていないと思われる。

●田中地区につながる道は低い。単に田水山小が避難所でなく、どうやったら避難できるかということを考えてもらいたい。そういうことも考えないと、単に廃校活用といっても先にやることのあるのではないかと思う。

→○避難所として考えると、色々な災害を考えていかなければならないが、避難ルート等は一軒毎に異なってくるため、ある程度は自助も必要になってくると思う。すべてが災害にあわないということで整備することは基本的に出来ないと思うので、対策防止の方針として公助もあるし自助も考えていただければと思う。

[筑波西中について]

●125号バイパスが通るが道の駅として利活用できないか。農業の活性化にもつながる。

→○意見はいただいているが、現状は道の駅として利活用する考えの整理はついていない。

○引き続き、跡地利活用の検討にあたっては、地域との意見交換を実施していく。区長の方々には、引き続きご協力をお願いしたい。

(3) 閉会